「国際臨床サーカディアンヘルス研究会」でヘルスコミュニケーションコース在校生・修了生がボランティア活動を行いました」

2026 年 11 月 2 日（月）・3 日（火）、順天堂大学にて「国際臨床サーカディアンヘルス研究会」が開催され、本学のヘルスコミュニケーションコース在校生・修了生たちがボランティアスタッフとして運営に協力しました。

国際臨床サーカディアンヘルス研究会は、ハーバード大学の Charles Czeisler 博士を中心に設立された国際的な組織です。概日リズム（体内時計）と健康の関わりや、概日リズム睡眠覚醒障害などの疾患に関する臨床・基礎研究を深めることを目的としています。2025 年に米国で記念すべき第 1 回が開催され、第 2 回となる本大会は日本の順天堂大学で開催されました。本コース在校生の植場恵子さん（M1）、堀田采花さん（M2）がボランティアスタッフとして運営に協力したほか、医療通訳者などとして活躍中の修了生も参加しました。

国際的な現場での活躍と実践

大会初日に、院生・修了生たちは受付業務や来場者の会場案内などを担当しました。世界 10 カ国以上からトップクラスの研究者が集まる国際的な環境の中、学生たちは初めての国際学会参加に緊張感を持ちながらも、それぞれの役割をしっかりと果たしました。英語を用いた受付応対や案内業務をやり遂げたことは、院生たちにとって実践的なコミュニケーション能力を発揮する絶好の機会となりました。

学術の最前線に触れたボランティアスタッフたちからは、次のような感想や前向きな手ごたえが寄せられています。

- **専門知識への深い学び**：概日リズムに関する最新の知見や研究成果について、深く学ぶことができた。
- **研究への情熱への感動**：世界中の研究者が「概日リズム」という一つのテーマに向けて熱心に発表・議論する場に同席でき、大きな刺激と感動を受けた。
- **実践的な英語力への自信**：緊張しながらも英語でしっかりと受付応対を行い、今後の学びやキャリアにつながる確かな手ごたえを感じた。

大会長の谷川　武先生(順天堂大学公衆衛生学講座主任教授)からは、「今回、皆様のご協力を頂き、大変助かりました。ここに改めて御礼申し上げます。今後、皆様のさらなる活躍を期待します。」とコメントをいただきました。

院生たちにこのような貴重な国際学会での実践と学びの機会をご提供いただきました、谷川先生をはじめ、主催者の公衆衛生学教室の皆様に心より感謝申し上げます。



受付にて、M2 の堀田さん（最右）と国際教養学部大野ゼミ生たち